

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0992500124 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 清幸会 | | |
| 事業所名 | 認知症高齢者グループホームりんどう荘 | | |
| 所在地 | 栃木県那須郡那須町湯本新林206 | | |
| 自己評価作成日 | 平成29年1月20日 | 評価結果市町村受理日 | 平成29年4月25日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人栃木県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 栃木県宇都宮市若草1-10-6 | | |
| 訪問調査日 | 平成29年3月17日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の理念は「もう一つの家族として、その人らしさを大切に安全・安心・快適、そして笑顔があふれる生活を提供します。」としています。閑静な別荘地にあり、自然の恵み豊かで季節の移ろいを日々感じる事ができます。利用者様は、それぞれ自分のペースで生活されおります。自施設は開所3年を迎え地域に認められつつあるところ。地域の方と交流できるようになりボランティアの方の来荘や小学校との交流などの機会も増えてきました。また、家族交流として敬老会やクリスマスにご家族に参加をいただき、色々とお話をすることが出来、ご家族の思いを深く理解できるようになりました。利用者様には居心地の良い環境、職員には働きやすい職場を目指しています。共に生きる「もうひとつの家族」として、泣いたり、笑ったりしながら、当たり前前の生活が出来る事を大切にしている施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、豊かな大自然に囲まれ、別荘や保養所の立ち並ぶ閑静な場所にある。企業の保養所だった事業所の建物は、山の傾斜を利用して建ち、見晴らしがよく四季の恵みを直接感じることが出来る。利用者が一日一回でも笑顔になれるよう、職員は皆で協力してケアにあたっている。地域とのかかわりを大切にしており、ボランティアの訪問や小学生との交流は、利用者の楽しみとなっている。利用者家族も敬老会や忘年会で事業所を訪れ、共に楽しんでいる。利用者、家族、訪れる方々、職員が皆、家庭的な雰囲気の中で過ごせる温かい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念を各フロア、玄関、事務所に掲示している。また、毎朝朝礼での唱和を行っている。さらにユニット会議で理念の内容を確認している。 | 利用者のその人らしさを大切に、一日一回でも笑顔があるようにという思いから、職員の意見を取り入れながら昨年7月に新しい理念に見直しをした。玄関等に掲示するとともに毎朝唱和し、職員も常に意識してケアにあたっている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 近隣の方に運営推進会議に参加していただき、交流に努めています。自治会の班長となり地域の一員としての役割を果たしている。回覧板を利用者と一緒に届けるなど交流をしている。 | 自治会に加入し、班長を務め、利用者と一緒に地域の清掃等に参加している。毎月、様々なボランティアを受け入れている他、年2回、小学生の訪問があり、その交流が利用者を生き生きとさせている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議にて認知症の方の様子や支援方法などを説明し、理解促進を図っている。また認知症サポーター養成講座で認知症グループホームの役割説明している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回のペースで開催し、実績や毎月の行事などの活動内容を報告しています。会議で出た意見や提案などについては真摯に受け止め、サービス向上につながるようになっている。 | 町職員・地域包括支援センター職員・自治会長・民生委員・地区社協職員・利用者・利用者家族の参加のもと、2か月に1回開催している。運営状況の報告をするとともに、地域との交流などについて意見が出され、よりよい利用者支援に繋がっている。 | 議題に応じて、消防関係者や警察関係者の参加を働きかけるなど、地域とのつながりが一層深まるような取り組みを期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 日ごろから運営に関する不明な点や困難ケースなど、町や地域包括支援センターに相談し助言を頂いたり関係性を強化している。 | 町の保健福祉課職員、地域包括支援センター職員が運営推進会議に出席している。介護保険制度、空き状況、グループホーム利用希望者等について、相談したり情報提供してもらうなど、良好な関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束防止の「宣言」を掲示し、管理者、リーダーがバックアップすると明言し、身体拘束ゼロを継続しています。なぜ身体拘束の弊害等を会議等で職員への周知徹底をしています。玄関の施錠は夜間のみとしております。 | 身体拘束防止の宣言を玄関に掲示するとともに、職員研修で理解を深めている。玄関は夜間のみ施錠とし、不穏や帰宅願望のある方には、職員が付き添って対応している。言葉づかいには特に気をつけ、職員同士で注意し合っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 自分たちは虐待の早期発見、通報の義務があることを掲示並びに会議や研修を行っている。また自分たちもストレスを溜めないことの大切さも話し合っている。 | | |

認知症高齢者グループホームりんどう荘

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 利用者様に身内が居ない方がおり、これからの生活を考え、成年後見人制度について学び結びついている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約には十分な時間を設け、ご理解いただけるまで説明を行っております。契約後も不明な点が出てきたときには気兼ねなく質問できるよう配慮している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 管理者が利用者や面会に来た家族に直接話しかけることにより、得た情報を職員で共有し改善等につなげるようにしている。また、不在の場合は他職員に申し送りをおき家族とお話しをするようにしている。 | 普段から利用者や家族から意見、要望が出しやすい環境づくりに努めている。面会や敬老会、忘年会での家族の来訪時には意見や思いをよく聴き、信頼関係が深まるよう努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 朝礼、各種会議のほか、普段から現場に向き、職員が声をかけられる機会を多くとっている。 | 管理者は日頃から職員からの意見や提案が出しやすい関係づくりに努めている。職員会議、年2回の個人面談、何か必要なことある毎に会話があり、サービス向上のきっかけになっている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は管理者の個々の努力や実績、勤務状況を把握しており、管理者は職員個々のそれらを把握し代表者に伝えて反映されるよう努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表者は特に人材育成に力を入れており研修は年間計画を立てて受講させている。また、事業所に赴き、管理者や職員個々のケアの実際と力量を把握している。法人の介護マニュアルがあり、それに基づき統一したケアができるようトレーニングしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 代表者は管理者や職員が連絡協議会や町の研究会などに参加し、他事業所との交流ができるような機会を設けている。 | | |

認知症高齢者グループホームりんどう荘

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 導入前に施設見学や希望者には体験利用をして頂き不安を軽減してもらうようにしている。また、本人や家族からできるだけ多くの情報を得ておき現場職員には必要に応じて対応するように指示している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 導入前に家族の話をじっくり聞きとるようにしている。家族が話しやすいように世間話を交え和んだ雰囲気作りをしている。困りごとや不安、要望について分かりやすく相談に応じ約束は必ず守り信頼関係を築くように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人と家族が今、何を必要としているか察し、話し合い検討し、幅広い視点から本人と家族が求めているサービス提供への対応をしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は介護に加え、生活支援が重要な業務である事を意識している。ご本人ができる家事はお願いして急がせることなく、見守りを行い職員も利用者から学ぶ事が多々ある。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 地域密着型としていつでも家族が気軽に来荘できる環境づくりに努めている。随時家族と連絡を取り合い相談して本人と家族の意見のバランスをとりながら物事を進めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 通いなれた美容室へはできる限り家族と一緒に行く、ご家族以外の友人等の面会も積極的に受け入れるなど、これまでの生活が大きく変わらないように配慮している。 | 理美容については、利用者の希望に合わせて今までの店に出かけられるよう支援している。食事、温泉、兄弟姉妹宅等への外出、正月の外泊等も、家族の協力のもとに支援している。知人等の来所の際も楽しく過ごせるよう配慮している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 食事時間には体調不良者以外は、皆様自然に食堂に来られる。誰かが揃わないと皆で心配するなど関係性ができている。 | | |

認知症高齢者グループホームりんどう荘

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約が終了してもこれまでの関わりを大切にしながら必要に応じて本人、家族の今後について相談や支援を行えるよう取り組んでいる。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 今までの日常の会話や普段の様子、また家族とのやりとりの中から本人主体の生活が送れるよう心がけている。 | 契約時に生活歴を把握し、家族と話し合った上で、どのように暮らしたいか職員が情報を共有するよう努めている。会話が難しい方は、じっくり話をして待ちながら、表情、しぐさから思いや意向をつかむようにしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所時にご家族に生活歴等を記入いただいている。また本人、家族から生活歴の聞き取りを行ったり、これまで関わってきた介護保険事業所から情報を提供してもらっている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎朝の体調確認とご本人の意向により、その日の過ごし方を職員間で相談し合っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人やご家族の意向を確認しながら、必要があれば医療との連携をとりながら担当者間で話し合い、介護計画を作成している。 | モニタリングは3か月毎に行っている。担当者会議を開き、利用者、家族の意見を取り入れながら職員間で話し合っって計画を作成している。6か月毎に見直しを行い、家族への説明もしっかりと行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別介護日誌や業務日誌、連絡ノートに日々の様子や気づき等を記入し、出勤時に確認することで情報の共有を図っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 訪問美容室の導入、買い物支援など柔軟な対応に努めている。 | | |

認知症高齢者グループホームりんどう荘

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 家族や地域の方にボランティアを依頼し、暮らしを楽しむ事ができるように支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 通院はご本人やご家族の希望に添いながら、関係性を重視し、なるべく長年診てもらっていたかかりつけ医の診察を受けられるよう配慮している。 | 月に1回、協力医による訪問診療がある。その他家族、医療機関と情報を共有しながら家族付き添いのもとでかかりつけ医受診の支援をしている。薬の管理は所属の看護師が担当している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 体調の変化がみられた時にはすぐに看護師に報告し、対応法や受診など適切に支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ご利用者の方が入院された際には、こまめに面会に行き状態を把握するとともに、MSWやご家族と連絡を取り合い早期に退院できるよう心がけている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や終末期に向けた方針については、入所時にご家族様にホームが出来る事、出来ない事を説明している。これからのことについて話し合い特別養護老人ホームの情報提供しながら看取のできる施設への入所を勧めている。 | 法人の方針で、看取りはせず、重度化した場合は、グループ法人の特別養護老人ホーム等への入所を勧めている。事業所の考え方を契約時に家族に説明している。 | 今後、看取りの要望が増える可能性もあるため、勉強会などで理解を深めるとともに、法人全体で重度化や終末期のケアについてさらに検討を重ねることに期待したい。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時のマニュアルを整備し、職員全員が把握できるようにすると共に、定期的に普通救命講習の受講も促している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 毎月の自主避難訓練と年2回の消防署員を招いての総合避難訓練を行っている。スプリンクラーや自家発電機を設置している。 | 年2回の消防署立会いでの避難訓練の他、毎月自主訓練を行っている。現在風水害時の避難マニュアルを見直し中である。自治会に災害時の協力を依頼している。水、パンの缶詰等食糧の備蓄の他、カセットボンベ、ラジオ等も備えてある。 | |

認知症高齢者グループホームりんどう荘

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 説得するのではなく納得をいただく言葉掛けをするようにしている。入浴は一人ずつ、部屋に鍵をかけた方には巡視時や緊急時には開けさせていただくことを説明した上でかけていただいている。 | 利用者一人ひとりを大切に、言葉かけについては特に注意している。風呂やトイレ誘導もスムーズに声かけし、快く過ごせるように努めている。入浴は1対1で対応し、入浴拒否の方への声かけも工夫している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者様の言葉だけでなく、裏に隠されている気持ちを会話の中からや、ふとした表情や沈黙などを見逃さないような職員の育成に努めている。自己決定が難しい方には選択性にするなど工夫をしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者様の自己決定を促している。こまめな声かけを行い本人の意向を確かめながら過干渉、ほったらかしにならないようにしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 清潔な衣類の着用を心がけています。また、着ている服の色や形などを会話の中に取り入れ、自信が持てるような声掛けをしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食器洗いはできる方にはやっただくようにしている。また野菜の皮むきなど、普段の料理の中でできることはお願いをして手伝っていただいている。 | 専任の調理師が利用者の希望を取り入れながら手作りしている。利用者は手作りおやつや配下膳等、積極的に参加している。利用者が自分で選んだ好みのものを近くの店に出前注文することもあり、楽しみとなっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取量、水分摂取量は記録をつけています。脱水予防として一日1500CCを目安にしていますが、変化があったときには注意深く様子を観察するようにしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後個々に応じて義歯洗浄、歯磨き、うがいの声掛け、誘導、介助をしている。口腔ケアに使用する歯ブラシ、コップも週に1回消毒しています。口腔内の状態も確認している。 | | |

認知症高齢者グループホームりんどう荘

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排尿、排便の記録をつけ、排泄パターンを把握し適宜に声掛け、誘導を行っている。オムツをしている人でも尿便の訴えあればトイレで排泄する援助をしている。 | トイレのチェック表をつけ、声かけ、誘導を行っている。チェック表はタブレットで管理し、職員間で共有している。夜はトイレ誘導やオムツ使用等、利用者の状況に合わせて、快適に過ごせるよう支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便の記録をつけ個々のパターンを把握している。記録には本人が何日排便がなかったかが一目でわかるようにしてある。適度に体を動かす、水分を多く摂るなど日常生活に気を付けている。自然排便が困難な方には医師に相談し処方された下剤を適宜使用している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 個々の入浴予定日は受診や外出予定を考慮して本人と相談して決めている。それによって利用者はその日を楽しみにし、それぞれ計画的に過ごされるので入浴時間はゆっくり自分の時間として楽しまれている。 | 週2～3回入浴できる体制を整えている。職員が1対1で対応し、ゆっくり話をしながら入浴できるよう支援している。ゆず湯や入浴剤を使ってリラックスできるよう工夫している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々の居室は夜眠るだけのためのものでなく昼間でも自身のプライベートスペースとして休息やくつろぎの場所として活用されている。室温や寝具の調整、照明など個々に合わせて配慮し、安全かつ安心してお休み頂いている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個人ケースに薬の説明書をファイルしておくのでいつでも確認することが出来る。症状の変化については早期発見と対応に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 折り紙、編み物、料理、絵手紙などそれぞれの得意な事、興味がありそうな事に取り組んでいただいている。利用者が講師になる事も多々あります。掃除が好きな方は、共同部分の掃除をしていただいている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 行きつけの美容室への送迎を行ったり、家族面会時に急遽外食をされる際にも対応できるようにしている。 | 気候の良い時には近所に散歩や買い物に出かけている。季節に合わせて、お花見に行ったり、アイスクリームを食べに出かけることもある。町からはたらきかけにより、回想法にも繋がる民族資料館の見学を予定している。 | |

認知症高齢者グループホームりんどう荘

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 基本的にお金は家族、本人の希望もあり本人が所持管理を行っている。但しお金が紛失しまう可能性がある事も説明している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話、手紙のやり取りは自由にしていただいている。電話機の使い方、封書の投函などは職員が支援を行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 常に整理整頓行い、快適に過ごしていただくために室温管理を行って加湿、除湿を行っている。季節の設えをするようにしている。また、リビング外に椅子、ソファを置き、好きなように使っていただき、利用者同士の距離感を適度に保つ工夫している。 | 共有スペースはエアコンで空調管理し、特に湿度管理には注意している。壁には、誕生月の利用者の紹介や、皆で作った作品を飾っている。建物はコンクリート造りであるが、廊下等には絵や写真、立体作品を飾り、温かみを感じられるよう工夫している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングからは離れた場所にソファなどを設置し、自由に過せるようにしている。また、気の合う利用者同士では、各居室へ行き来し自由に会話等を楽しんでいる。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時にその方のお部屋であるので自由に使ってよいこととお話している。なるべく自宅に近い、落ち着いた空間にして欲しい事を説明しています。馴染みの家具や好みの絵や写真なども多く持ち込んでいただいている。 | カーテン・エアコン・ベッド・サイドテーブルが備え付けられ、タンス、テレビ等、自分の好みの品を持ち込むことができる。広くゆったりとした一人ひとりのスペースの中で、個性を活かし、思い思いの過ごし方ができるよう支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 施設内は階段がありますが、ユニット間の交流の際にリハビリを兼ねて上り降りしていただきます。浴室は個浴で介助のもと安全に入浴していただいている。 | | |